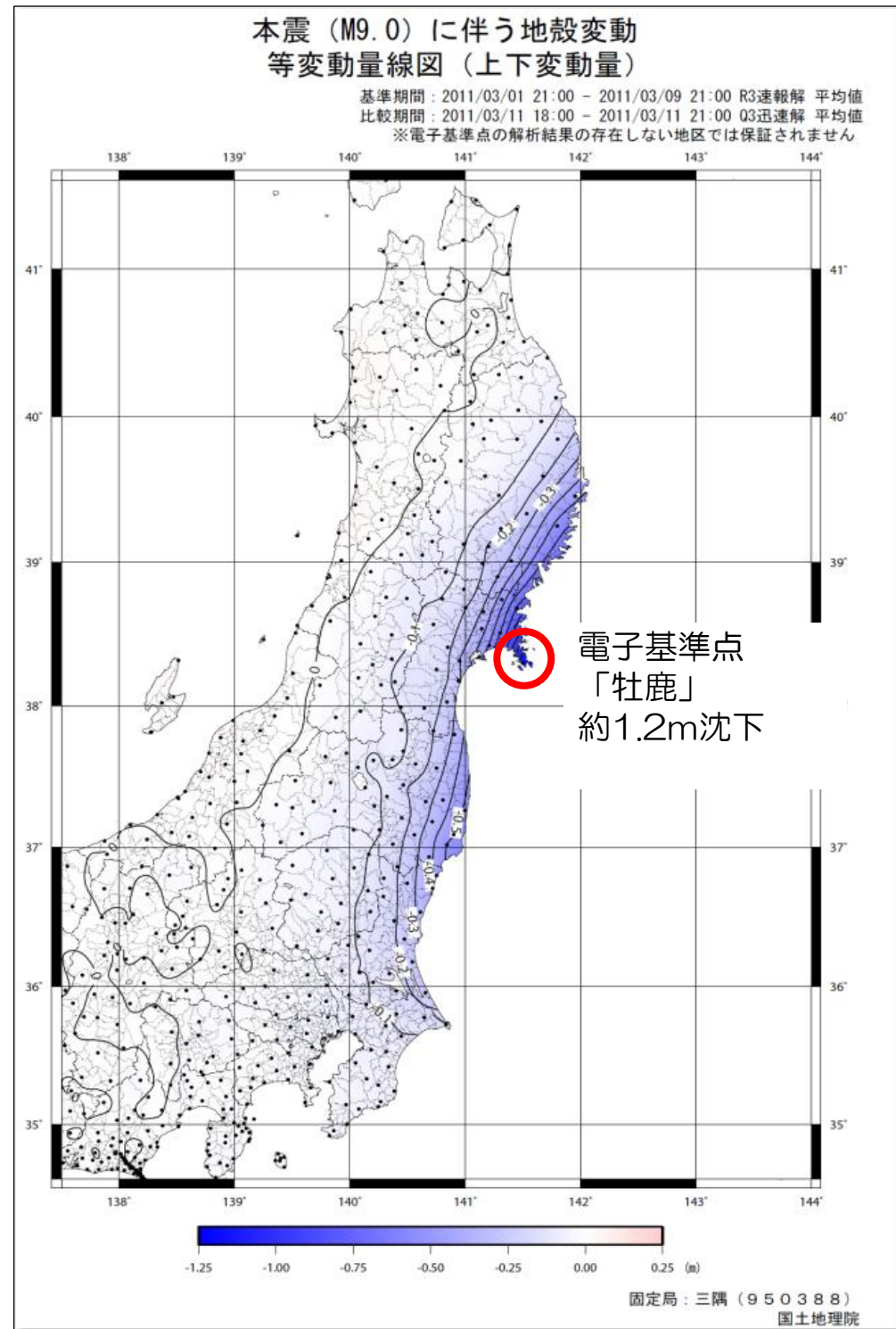


広範な地盤沈下の影響

国土地理院によると、震災（本震）後、牡鹿半島先端の電子基準点「牡鹿」が、東南東方向へ約5.3m動き、約1.2mも沈下しました。

地盤沈下は、三陸沿岸から石巻市を中心に70cmを超え、内陸部でも30~50cmを記録するなど、非常に広範囲に及んでいます。

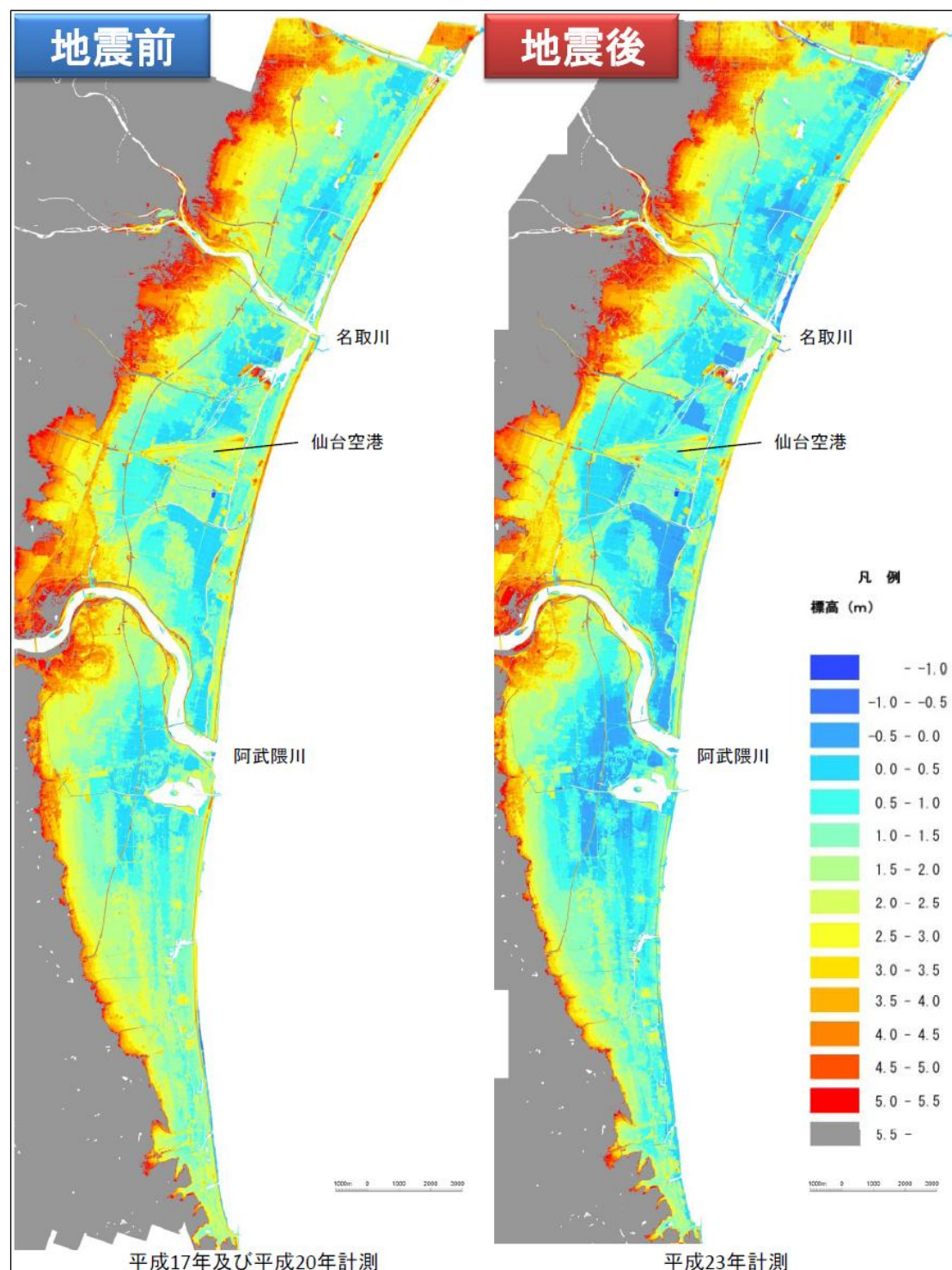


（出典：国土地理院）

ゼロメートル地帯の拡大

航空レーザ計測等によると、海拔0m以下の土地の面積は、地震前と比べて約3.4倍の56km²に、朔望平均満潮位（概ねT.P.+0.7m）以下の面積は、地震前の約1.9倍となる129km²に広がりました。

ゼロメートル地帯の低平地では、雨水を自然に排水することができな

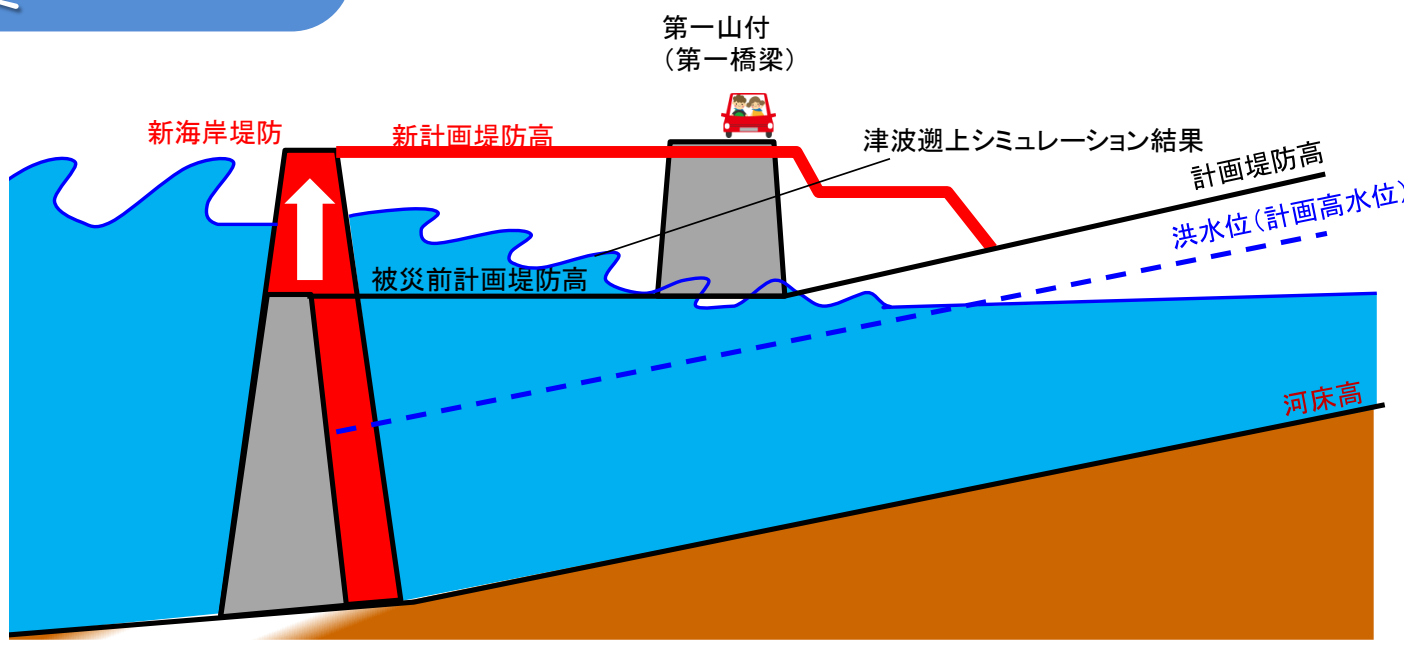


仙台平野の地盤沈下の状況（出典：国土交通省）

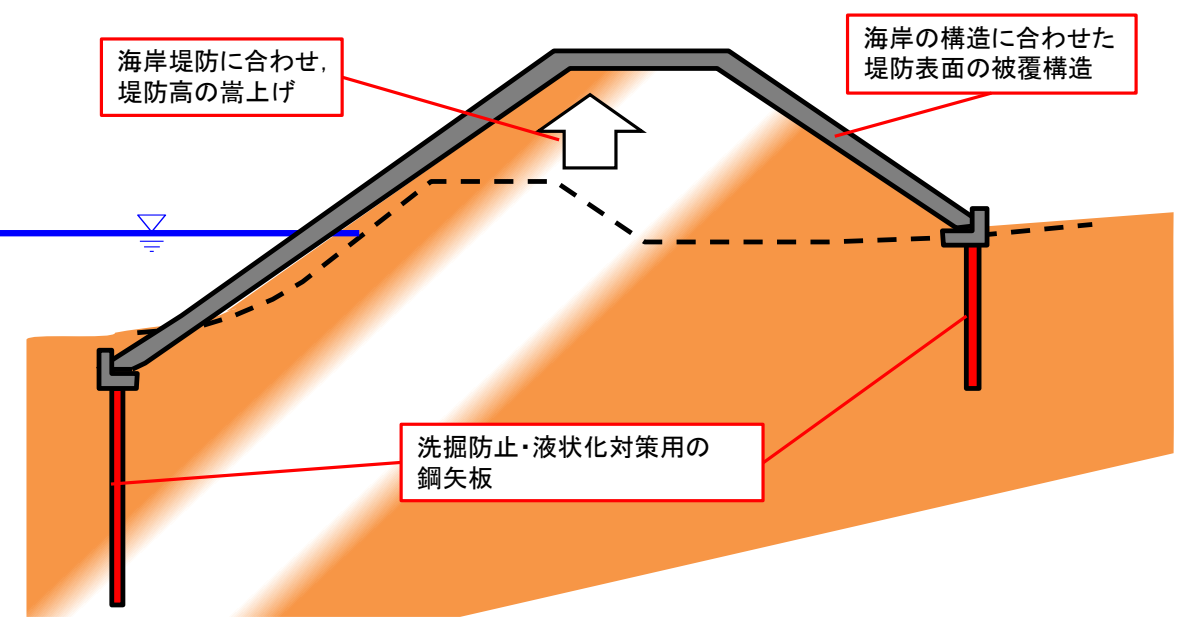
くなり、排水機場などのポンプ排水が必要となることから、地盤沈下は治水安全度の低下に直結することになります。

河川災害復旧事業の概要

大震災の甚大な津波被害を踏まえ、津波の遡上が懸念される区間の河川堤防は、一定区間、海岸堤防と同等の高さ・構造で復旧します。



また、今回の津波のように、海岸堤防を越える高い津波が押し寄せたとしても、壊滅的な被害を回避するために、粘り強い堤防構造で復旧します。

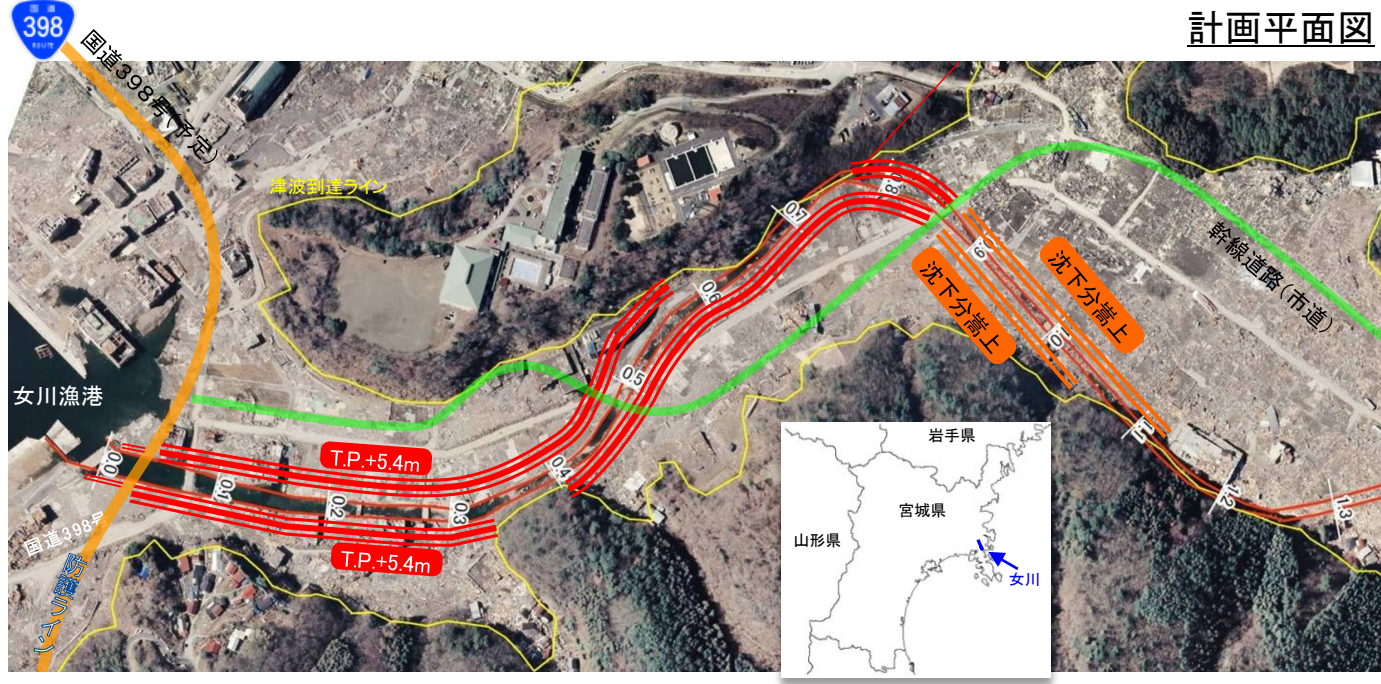


堤防表面をコンクリート等で被覆し、法足を鋼矢板等で保護することで、決壊を防止します。

強い地震動に対する地盤沈下や、液状化についても対策を行います。

女川（女川町）の復旧計画

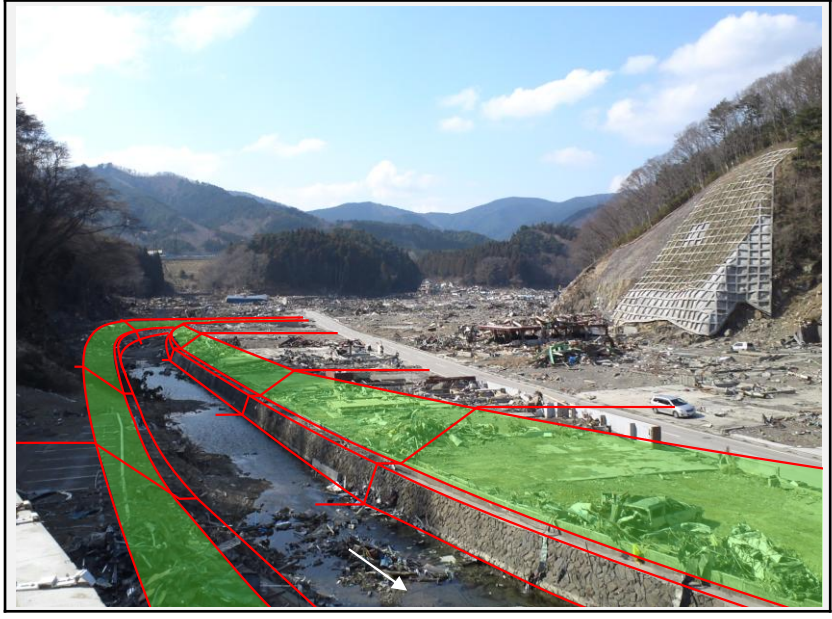
計画平面図



事業概要	
復旧延長	L=1,100m
築堤護岸工	L=1,890m

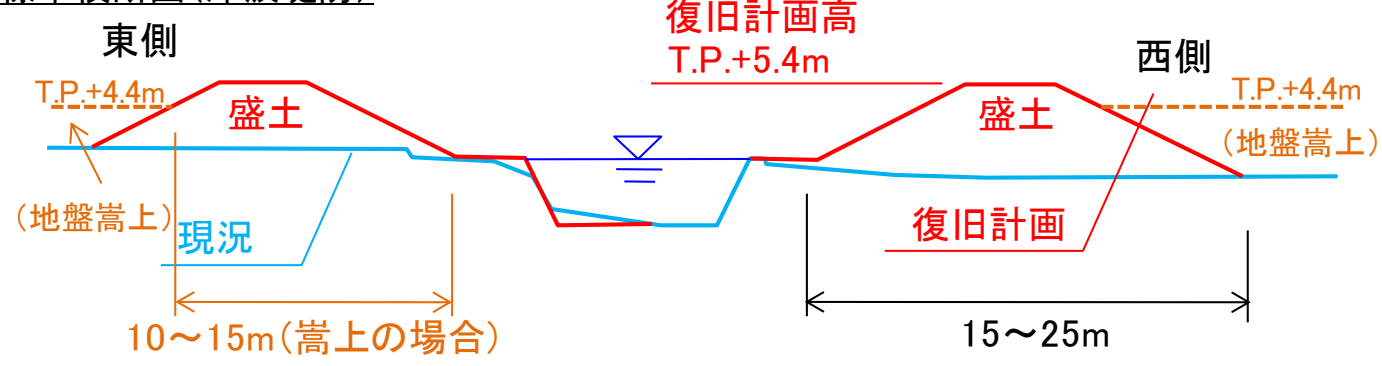
復旧行程					
	H23	H24	H25	H26	H27
応急復旧	断面検討 計画調整		本復旧		

復旧イメージ



標準横断面図(津波堤防)

上流から下流を見ている図です。

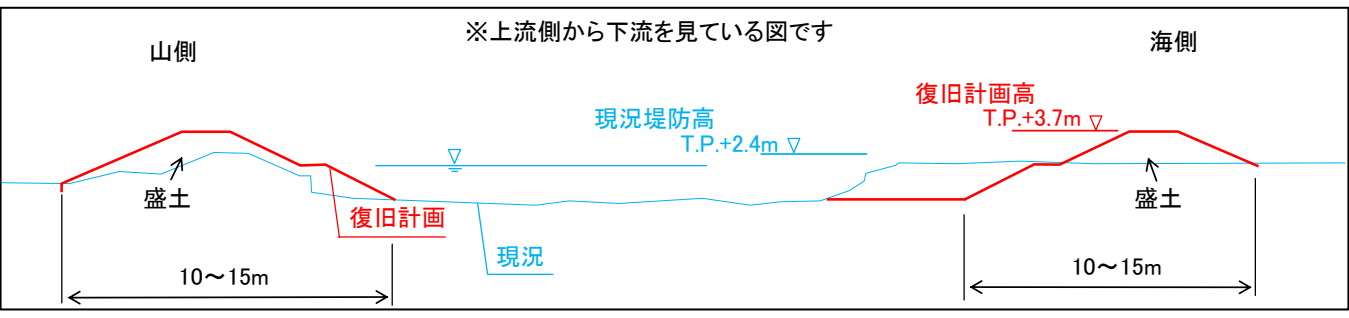
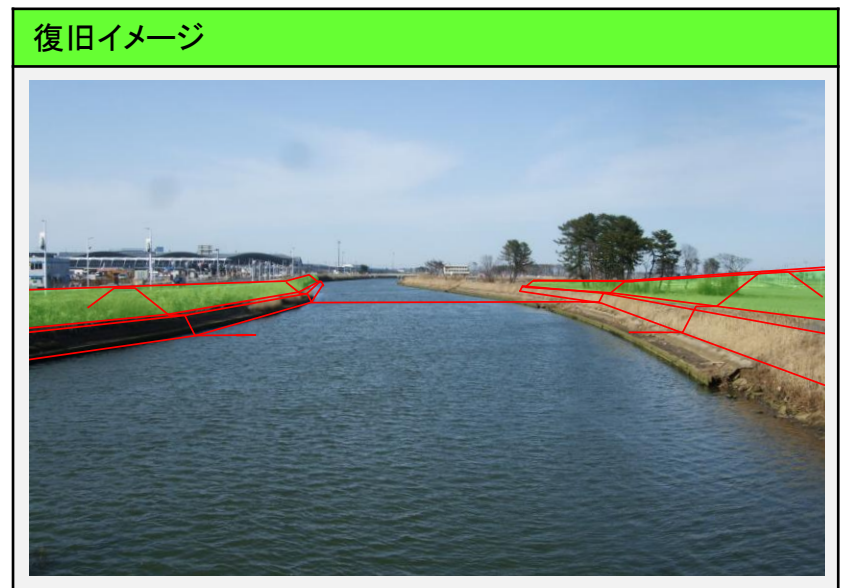


南貞山運河（岩沼市～名取市）の復旧計画



事業概要	
復旧延長	L=4,947m
堤防工(L1堤防)	L=4,947m
橋梁工	N= 1基
樋管工	N= 11基

復旧行程				
H23	H24	H25	H26	H27
応急復旧	断面検討 計画調整	本復旧		

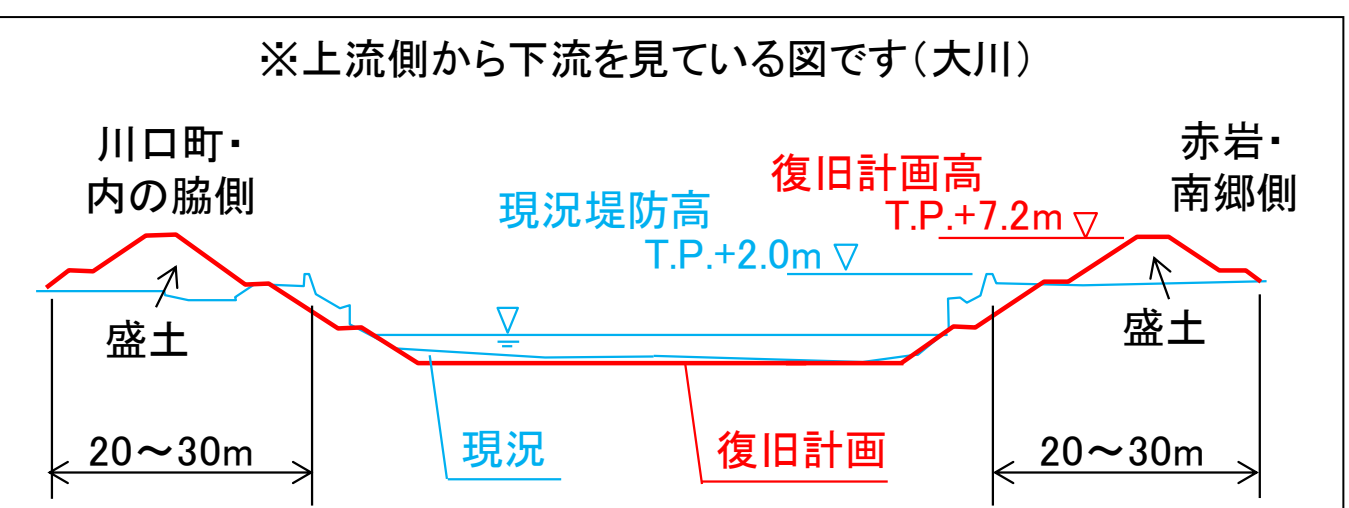
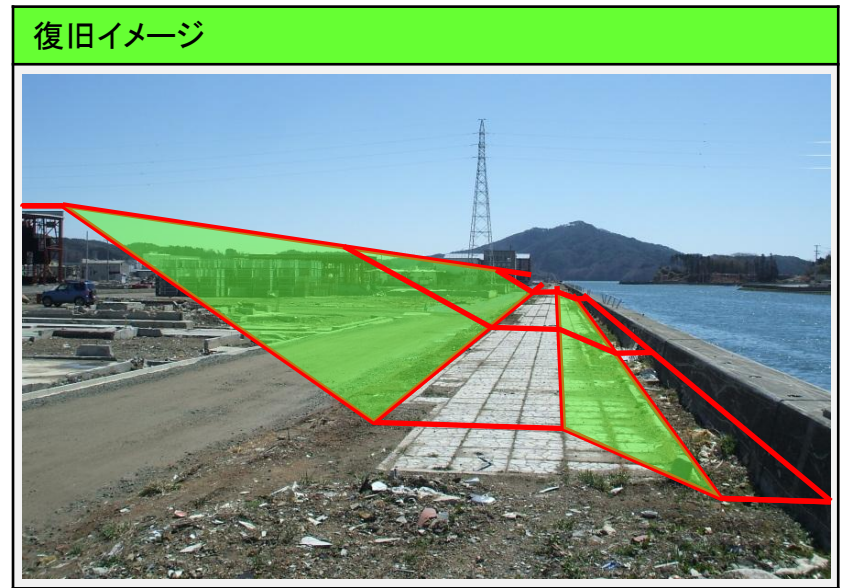


大川・神山川（気仙沼市）の復旧計画



事業概要	
復旧延長	L=6,568m
堤防工(L1堤防, 原形復旧)	L=6,568m
樋管工	N= 7基

復旧行程				
H23	H24	H25	H26	H27
応急復旧	断面検討 計画調整	本復旧		



川内沢川河川改修事業

川内沢川は名取・岩沼両市街地を貫流する河川で、沿川には仙台空港や国道4号、JR東北本線等の重要公共施設が集中していますが、現況の治水安全度が高くはなく、平成6年9月22日の豪雨災害では、仙台空港や市街地が広範に冠水するなど、名取・岩沼両市で甚大な浸水被害が発生しました。

このため、放水路を整備することで、上流からの洪水を直接広浦に導く大規模な河川改修事業を進めており、平成24年度事業で完了する予定です。

今後は上流に川内沢ダム（仮称）の整備を計画しており、総合的な治水対策を推進していきます。

川内沢川（放水路）整備事業

- 事業期間：平成7～24年度
- 事業延長：L=5,640m
- 事業費：約160億円
- 事業内容：放水路・橋梁・サイフォン

